

経営比較分析表（令和6年度決算）

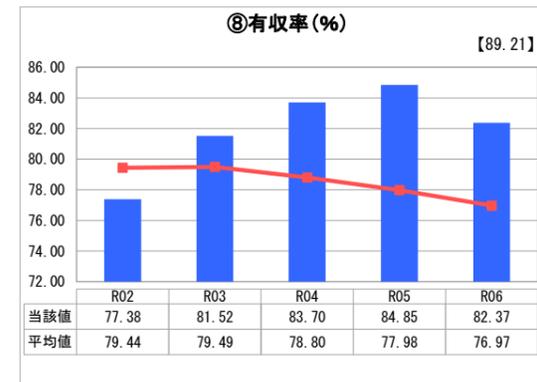
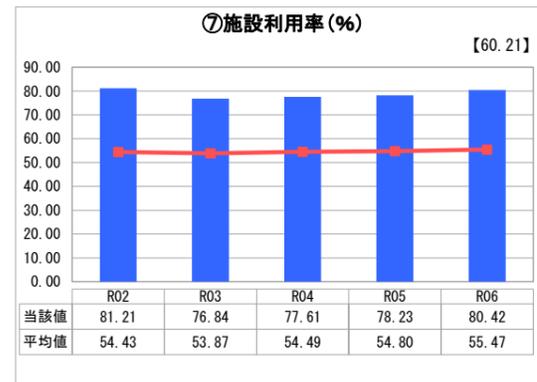
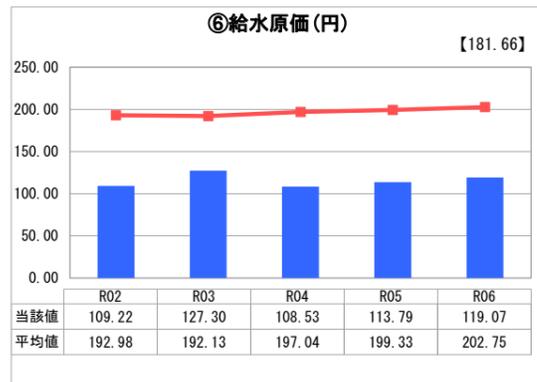
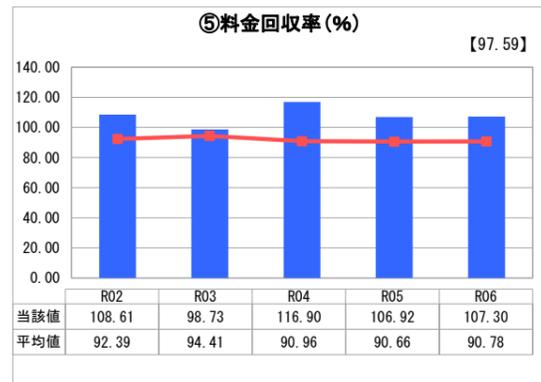
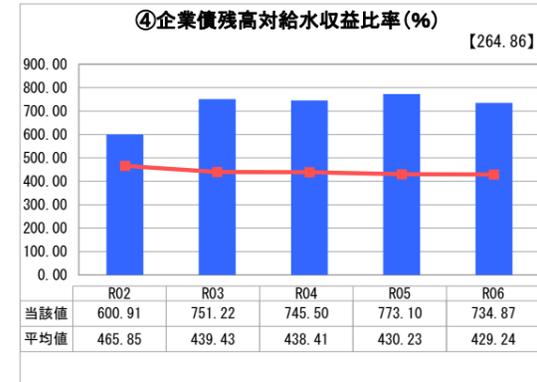
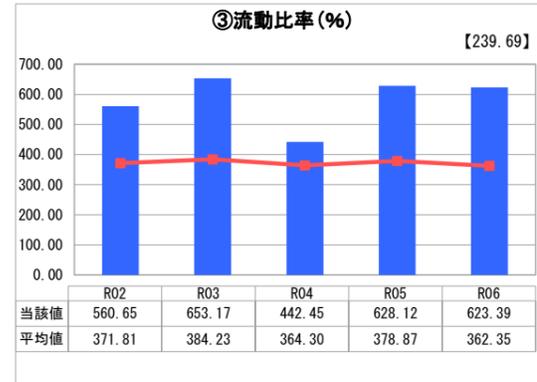
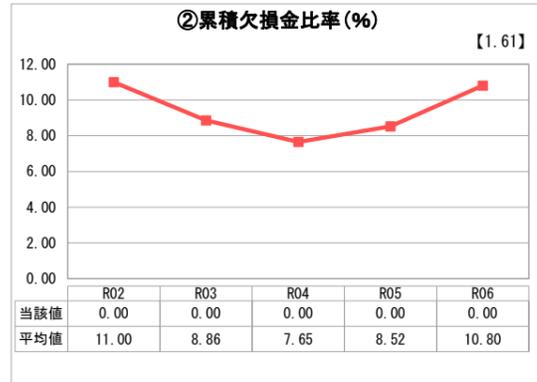
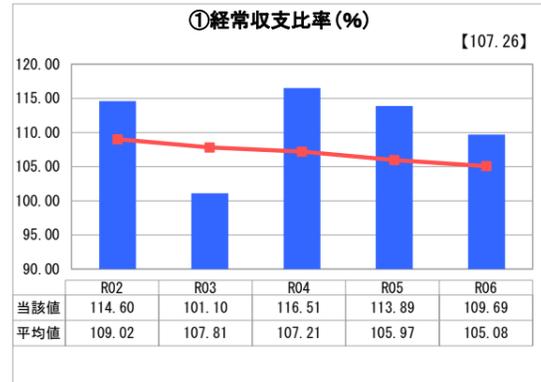
群馬県 甘楽町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.09	99.49	2,288	

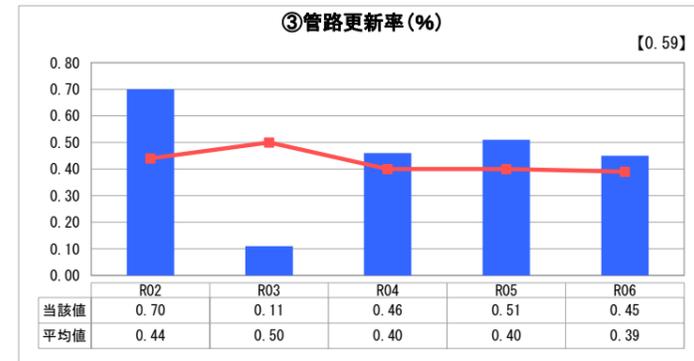
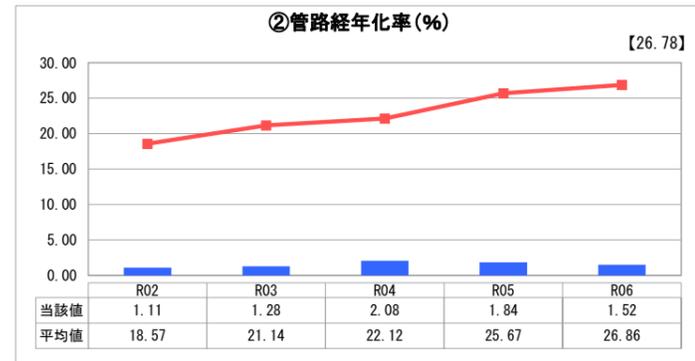
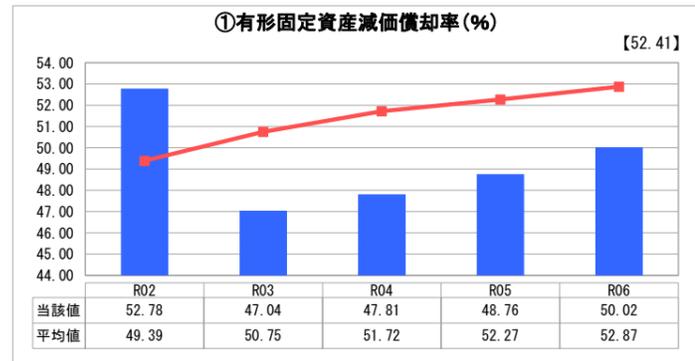
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
12,368	58.61	211.02
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
12,287	21.40	574.16

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 人事異動に伴う人件費の増加や、物価高騰に伴う薬品費や材料費の値上がりにより費用が増加したため、経常収支比率が減少している。
- ② 黒字経営により、当年度未処理欠損金がないため、数値は0である。
- ③ 工事に伴い未払金や起債が増加した結果、流動資産・流動負債がともに増加し、流動比率は前年とほぼ横ばいである。
- ④ 前年はコロナ対策で水道料金減免の実施により給水収益が減少したが、今年は給水収益が回復したため、数値が減少した。
- ⑤ 人事異動に伴う人件費の増加や、物価高騰に伴う薬品費や材料費の値上がりにより費用が増加したものの、給水収益が回復したため、前年とほぼ横ばいである。
- ⑥ 年間有収水量は横ばいだが、費用の増加及び長期前受金の減少により、数値が上昇した。
- ⑦ 年間総配水量が増加したため、数値が増加した。
- ⑧ 導水管・配水管本管の漏水調査と修繕を実施しているが、漏水量の増加に追いついていない状況である。今後も計画的に漏水調査・修繕を行う。

・施設利用率、有収率ともに高い数値を示しており、適切な施設規模で給水し、収益に結びついていると言える。
 ・令和6年度は物価高騰や人件費の増加により、営業費用が増加し、経常収支比率に影響したが、流動比率が示す支払能力や料金回収率も100%を上回っていることから健全な経営ができていると言える。

2. 老朽化の状況について

- ① 令和3年度までに白倉浄水場等の高価な償却資産を取得し、以前に建設された償却資産を売却したため、令和3年度から大幅に減少している。老朽化した配水管などの更新工事を進めているが、償却対象の固定資産以上に減価償却が進んでいるため前年度と比較して増加となっている。
- ② 老朽化した管路から毎年計画的に更新作業を進めており、数値は比較的低く抑えられている。
- ③ 配水管更新工事を計画的に実施しており、数値はほぼ横ばいである。

・平成25年度から老朽化した基幹配水管を中心に布設替工事を計画的に実施しており、管路経年化率は全国平均や類似団体平均値を大幅に下回っている。今後も継続して計画的かつ効率的な更新に取り組んでいく。

全体総括

少子高齢化による自然減が続いている中、近年の宅地開発による社会増により、年間配水量も落ち込むことなく、健全経営を維持できている。

しかしながら、施設・管路の更新については、多額な費用がかかるため、更新が必要な箇所を的確に把握し、計画的に改良・改修工事を実施する必要がある。

今後も維持管理費等の経費削減に努めつつ、経営の健全性・効率化を図り、水道料金の引き上げも視野に入れながら、健全経営を維持していきたい。